

当せん者エピソード

## 宝くじ こぼれ話

### 「虫を手で殺さない」人と 「あっさり」クールな人と

「勝てば、官軍」で、宝くじ高額当せん者の皆さんの当せん後の感想は、いろいろだ。

ドリームジャンボ（第678回全国自治宝くじ）で3等100万円を当てた大阪府の主婦Y子さん（39）に「当せんの前後に、なにか変わったことは？」と聞いたら、抽せん日の夜中に、4カ所も蚊に刺されたそう。 「悔しい！」と、向きになり、ここで自分の手で蚊を殺すと、バチは当たっても、宝くじには当たらない気

がしたそう。そこで、殺虫剤を持ち出して「シューッ」と撃滅。「これが、よかったんだと思います」というY子さんだった。

もう1人。同じ宝くじで3等100万円を当てた千葉県の会社員K子さん（36）の場合は、いつもの売り場で、店の人に選んでもらい10枚購入。抽せん日の翌日に新聞で番号調べ。そうしたら当せん。支払開始日の翌日に銀行へ行って換金。100万円を受領。感想を聞かれたK子さん。「あっさり当たってしまうんだあっていう感じかな」。さらに「うれしいのに、人に話せないのが残念です」とも。なんだか、クール！ こういう台詞、いってみたいですねえ。



ご当地クーちゃん  
ぶどろクーちゃん

## 宝くじ おもしろ話

### 抒情歌あり、音頭あり、コミカル・ ソングあり…宝くじPRソング(下)

「宝くじPRソング」の後編だ。昭和20年に誕生の「宝くじ」だが、数え年で20年の昭和39年7月に、お祝いの記念行事を開催。パネル展やミス宝くじの選定。ほかに「宝くじの歌」の歌詞の一般募集が行われ、最優秀作品に曲がつき「宝くじの歌」ができ上がった。これを初代・ミス宝くじの若紗ひとみさんが歌った。

毎年「9月2日」を「宝くじの日」と決めたのは昭和42年。同年9月2日に東京・池

袋のデパートで「宝くじ展」を開催。会場で披露されたのが、歌と踊りものにぎやかな「宝くじ音頭」で、歌ったのは島倉千代子さんだった。

昭和60年に茨城県つくば市で開催された「科学万博」。会場で協賛宝くじが発売された。この時に小椋佳作詞・作曲の宝くじイメージソング「ドリームオン～夢を追いかけて～」が誕生。

平成19年春、ジャンボ宝くじのCMキャラクターとなった西田敏行さん。テレビCMの中で西田さんがコミカルに歌ったCMソングが「人生・デラックス」だ。この歌ほど、多くの人々に親しまれた宝くじのCMソングはほかにない。



ご当地クーちゃん  
コウノトリクーちゃん

当せん者エピソード

## 宝くじ こぼれ話

### 「悪いことがあった時に購入」… そうしたら当せんて「ラッキー！」

みずほ銀行宝くじ部が毎年発表する「宝くじ長者白書」は高額当せん者対象のアンケート調査結果だが、その中に「ゲン担ぎで行なったこと」という項目がある。そのトップは常に「よいことがあった時に購入」。逆に「悪いことがあった時に購入」はどうか。こちらは、なぜか常に5番目だ。

ところで「悪いことがあって、ゲン直しで買ったら、当たった」という人がここに2人いる。

滋賀県の会社員Yさん(27)は、車上荒らしにあって、腹を立てているときに、ゲン直しで、町の売り場で第2464回近畿宝くじを20枚買った。そうしたら、1等の100万円に当せん。

宮城県の学生A子さん(20)は、大好きなバンドの演奏会チケットを申し込んだが、抽せんてハズレてしまった。がっかりのA子さん。それなら、浮いたお金で「宝くじを買おう」と思い立ち、第2347回関東・中部・東北自治宝くじを10枚購入。結果は1等の100万円に当せん。当せん金の使途をきかれて「ほしいと思っていた化粧品の購入と、親孝行にもちよっぽり使います」と笑顔で語っていた。



ご当地クーちゃん

光源氏クーちゃん